

なごやかクラブ
交通安全標語

～名古屋市老人クラブ連合会 会員増強運動～

◆ 会員増強優秀クラブ ◆



芙蓉会 杉原 会長

今回は受賞した4クラブの中で21人と最も増員した「守山区芙蓉会」取材しました。「芙蓉会」は会員数114人(男36人・女78人)森孝東学区唯一のクラブです。

現会長の杉原武さんが平成28年に会長に就任したとき、クラブの会員は64人、毎年減少が続いていました。最大の課題は、「芙蓉会」は何をしているのか、入会したら何か良いことがあるのか、入会する価値があるのかの答えが確にこたえられていないことでした。

減少に歯止めをかけるため、会員に対しクラブで何をしたいか、どのような活動・行事なら参加したいかアンケートを実施し、希望の多かった活動・行事を実施しました。

現在クラブの活動としては、①交通パトロール ②囲碁クラブ ③ラジオ体操と太極拳 ④グラウンド・ゴルフ ⑤名所行こまい会 ⑥卓球クラブ ⑦健康麻雀の会 ⑧カラオケ ⑨歩こう会 ⑩老人施設見学 ⑪草取り・清掃ボランティアなどを行っています。「名所行こまい会」は、弁当を持って市内の名所を訪れ、参加者でおかずを分け合いながら楽しい時間を過ごします。「健康麻雀の会」は最初1卓から

始めましたが、希望者が増え現在は6卓となりました。このように活動を具体化することにより、これがしたいからとクラブに入る人が増えてきました。

さらに会報を年3回発行することにより、常日頃クラブは何をやっているか、どのようなことをするのかを理解してもらい、行事に参加できない人も老人クラブとつながっていることを伝えていきます。

また年を取ってからの脱退を防ぐため88歳以上の会員は、会費を無料にしています。そして居住地に老人クラブのない他学区の人も受け入れています。

このような取り組みの結果、4年間で約8割増50人の大幅な会員増となりました。新年会などは、会員が増えすぎて会場に入りきれないのではとの心配も出てきています。

会長からは、「それぞれの活動において、世話をしていただけの人が一生涯懸命やっただけにいておかげで、活発な活動ができています」「これがしたいから老人クラブに入る人が増えてきているが、ここに入ってよかったといわれるような会にしていきたい」と話されていました。

◆ 会員増強優秀クラブに努めた学区および単位クラブの個人・グループの顕彰

◎ 会員増強優秀学区 (対象学区なし)

◎ 会員増強優秀クラブ (4クラブ)

東区=ゆうゆう会 中村区=諏訪会 中区=第三きらく会 守山区=芙蓉会

「左右見て 見通し悪けりや 渡らない」
見えない角度から車・バイクが!! 「あつ」と思った時にはもう遅い!!



7月16日、来年度の予算編成の前に、なごやかクラブ名古屋(市老連)の三溝芳隆会長はじめ犬飼謙治、小池吉彦、加納年子各副会長が名古屋市の行政支援についての予算等の要望のため名古屋市役所を訪れ、平松修長寿社会企画監に市長あての要望書を提出しました。

《要望事項》

① 単位クラブに対する補助金をクラブ会員の規模に応じた額とするともに増額を要望します。
② 区老連役員に対し日頃のクラブ活動における費用弁償として年50000円の支給を要望します。
① について三溝会長は、「なごやかクラブではこれまで会員増強に努めてまいりましたが、会員減少に歯止めがかからないのが実情です。その一因として現行の補助金(年4万1520円)が会員数に関わりなく一律で、会員数と補助金とが連動していないため、会員増には消極的になりがち的一面があります。政令市の多くが、単位クラブの会員数に応じて補助金の額を変更しております。今後の会員勧誘活動にも励みになるものと思われまますので、規模別に増額していただきたい」と要望しました。
② については、「活動の中心的役割を担っている区老連役員は、会合や活動の企画調整段階において事務的な経費(例えば、資料のコピー代や関係者への電話代等)を相当額負担しています。区老連役員の負担を少しでも軽減するため、年50000円(敬老パス本人負担金額)の費用弁償を支給してもらいたい」と要望しました。
市側からは「老人クラブがあつたからこそ高齢者の福祉も進みましたし、健康の保持についても健康な方が多くいらつしやるようになりました」予算要望事項については市老連と協議して検討させていただきます」とのお話がありました。

令和3年度 名古屋市長への予算要望書を提出

